

奄美地域における畑かん水を用いた夏期のサトイモ種いも自家増殖技術

夏期のサトイモ種いも自家増殖は、畑かん水を用いることで、秋までに種いもを5倍程度にできる

背景・目的

- ・奄美地域のサトイモ栽培では、冬～春期に自家増殖した種いもを使用
- ・自家増殖圃場での疫病発生等により種いもが確保できず、青果栽培の面積は減少
- ・畑かんが整備され、これまで行われていなかった夏期種いも生産の可能性が拡大

成果の内容

- ・畑かん水を用いることで、夏期の種いも生産が可能(図1)
- ・無マルチで5倍程度の増殖が可能(図2, 図3)
- ・10g以上の種いもで自家増殖可能(図4)

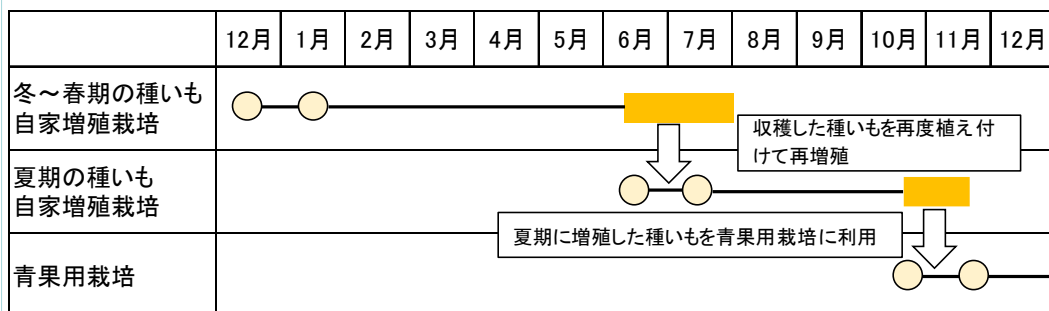


図1 夏期の種いも自家増殖栽培体系

水利用のポイント
 ・植え付け時10mm,
 その後降雨がない
 場合週1回20mm
 かん水

**疫病に注意！
 農薬の予防散布
 が重要**

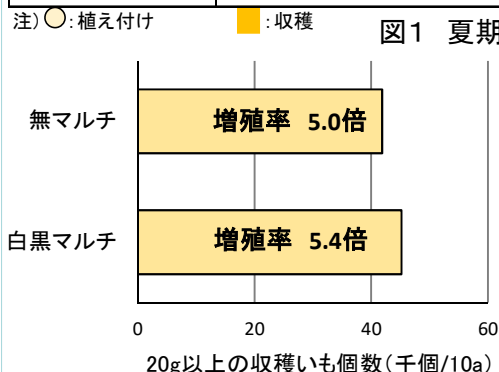


図2 マルチの有無がいも個数と増殖率に及ぼす影響



図3 夏期の種いも自家増殖圃場

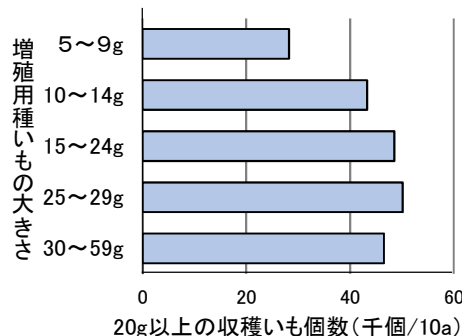
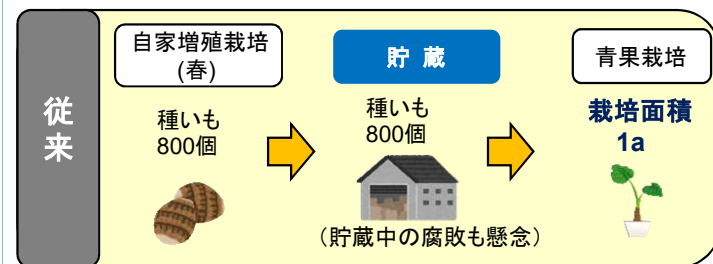


図4 種いもの大きさの違いがいも個数に及ぼす影響

期待される効果

○夏期の種いも自家増殖で次作の青果栽培の面積を維持・拡大
 →経営の安定化



○普及対象・範囲 奄美地域のサトイモ栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター
 徳之島支場園芸土壌研究室